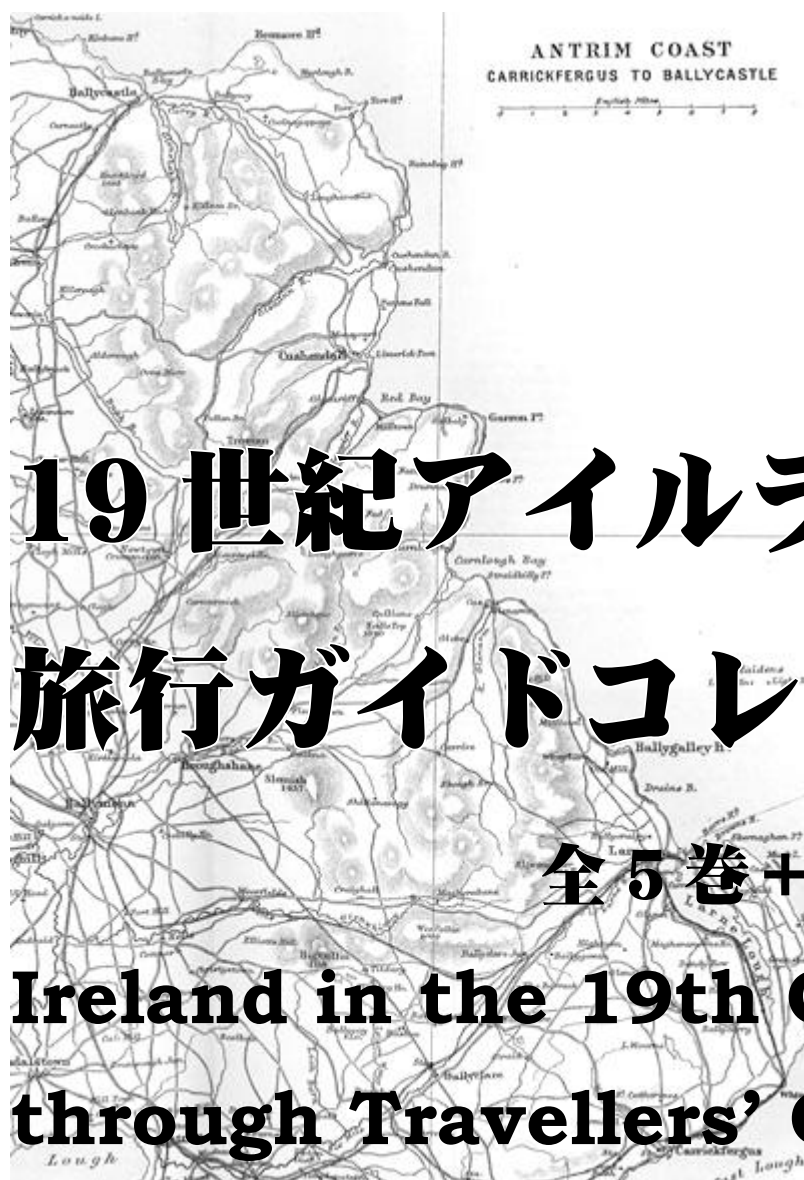


分野：アイルランド史、アイルランド文学、イギリス近代史、ヴィクトリア朝文化、旅行・観光史

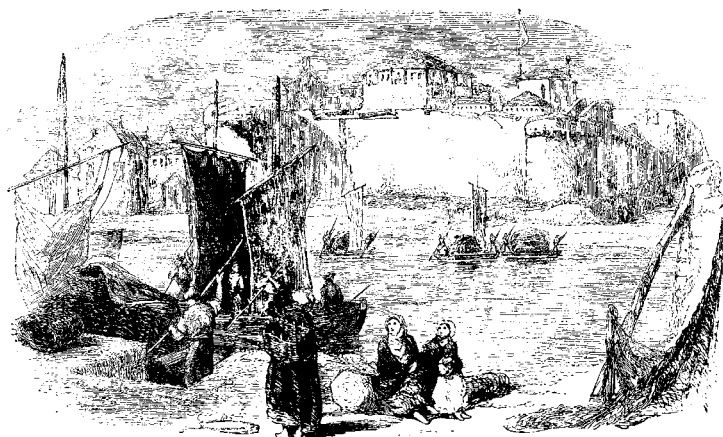


19 世紀アイルランド 旅行ガイドコレクション

全 5 巻 + 別冊日本語解説

Ireland in the 19th Century
through Travellers' Guides

監修・解説：勝田俊輔（東京大学文学部）



Eureka Press



19 世紀アイルランド 旅行ガイドコレクション

全 5 巻＋別冊日本語解説

Ireland in the 19th Century through Travellers' Guides

監修・解説：勝田俊輔（東京大学文学部）

2015 年 6 月刊行 A 5 判・約 2,400 頁（地図・図版多数）

本体セット価¥128,000-（＋税） ISBN: 978-4-902454-90-1

1801 年にブリテン（イギリス）とアイルランドが合同し連合王国が発足して以降、両国の政治、経済、文化の関係は緊密さを増し、人的な交流も盛んになります。本書はその 19 世紀に連合王国で刊行された旅行ガイドを、数多くの図版や折込み地図など含め復刻するコレクションです。合同から世紀半ばの大飢饉、自治を求める運動が盛んになる世紀後半へと、激しく変化するアイルランドの 19 世紀が俯瞰できるよう、それぞれの時代の特色ある 5 種の文献を収録します。

アイルランド史研究としてだけでなく、アイルランド文学研究の背景資料や文化史、近代ツーリズム研究の資料としてご利用いただけます。

●収録タイトル●

Volume 1:

The Travellers Guide through Ireland/ or, a Topographical Description of that Kingdom

Rev. Jo. Robertson

Edinburgh & London: Denham & Dick - Vernon, Hood, and Sharp, 1806, c.350 pp., incl. a fold-out, hand-coloured map.

Volume 2:

The Traveller's New Guide through Ireland

London: Longman, Hurst, Rees, Orme, and Brown, 1815, c. 580 pp. incl. a fold-out map

Volume 3:

A Hand Book for Travellers in Ireland, Descriptive of Its Scenery, Towns, Seats, Antiquities, etc., with Various Statistical Tables...

James Fraser

Dublin: William Curry, 1844, c. 748 pp., incl. a fold-out map

Volume 4:

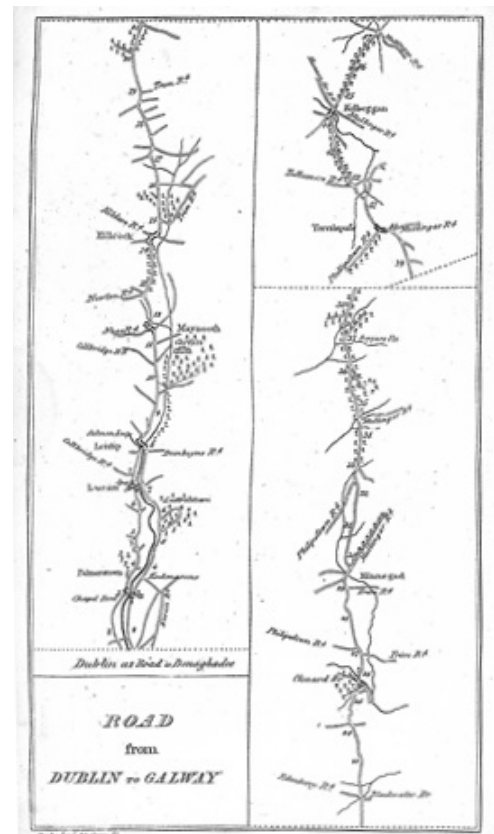
The Irish Tourist's Illustrated Handbook for Visitors to Ireland in 1852, 2nd ed.

London: Office of the National Illustrated Library, 1852, c.200 pp., incl. 3 fold-out maps

Volume 5:

Black's Tourist's Guide to Ireland, 19th ed.

Edinburgh: Adam & Charles Black, 1886, c. 478 pp. incl. 4 fold-out maps



編者より

勝田俊輔（東京大学文学部）

今回復刻されるアイルランド旅行ガイドコレクションは、さまざまな意味で注目に値する。第一に、これらのガイドは主にブリテン（イギリス）からの旅行者向けに書かれたものだが、物価や移動手段、宿場町の様子、名所旧跡といった旅の実用情報だけでなく、当時のアイルランド社会についての観察記録や図像も含んでいる。有用かつ興味深い歴史史料である。

歴史史料として見ると、本コレクションから最初に取り出ることができるのは、アイルランドの空間的多様性である。これが第二の注目点である。一般に旅行ガイドは地域ごとの相違を強調するが、特にアイルランドの場合、自然条件の違いに加えて、12世紀以来数度に渡ってイングランド／スコットランドによる征服・植民を経験してきたことも大きい。このためブリテン島に近い北・東部と、離れた南・西部とではかなり違った社会が形成されており、さらに19世紀には北部で工業化が進み、地域の違いに拍車がかかることになる。

第三の注目点として、時間的な変化についてもこのコレクションは雄弁であり、19世紀に起こった大きな社会変動を跡づけている。例えば、アイルランドは世紀前半の人口過剰気味の社会から世紀末の人口減少に悩む社会に変わり、田園風景の主役も、麦畑とジャガイモ畑から、牧草地でのんびり草を食む牛や羊に変わる。また特にこのコレクションには、世紀半ばの大飢饉の直前・直後の旅行ガイドが収録されており、大飢饉の衝撃の実像（そして虚像）についても情報を与えてくれる。

第四の注目点をあげると、連合王国の複合的なアイデンティティの問題についても示唆的である。19世紀のイングランドやスコットランドの人間は、同一の国家に属したはずのアイルランド人を同胞として見ることはなく、むしろ、アイルランド人との違いを意識することで自らのアイデンティティを作りだすことさえあった。このような「内なる他者」としてアイルランドを見る傾向が最も強かったのが旅行者であり、この意味でこのコレクションは、19世紀のアイルランドだけでなくブリテンについても何事かを教えてくれる史料となっていると言えよう。

SCALE OF HOTEL CHARGES.

Name of Hotel.	Proprietor.	Bed.	Breakfast.	Lunch.	Dinner.	Tea.	Supper.	Attendance.	Private Rooms.
ANTRIM.	— McQuillan.	s. d.	s. d.	s. d.	s. d.	s. d.	s. d.	s. d.	s. d.
Manse Arms.	— McNally.	1 0	1 0	1 0	1 0	1 0	1 0	Optional.	6 0
ARKLOW.	J. Kilbee.	1 0	1 8	1 0	2 4 3	0 10	—	1 0	No charge.
Woolen Bridge.	J. Hughes.	1 0	1 3 to 1 8	1 0	1 6 to 2 6	1 0	1 to 1 0	1 0	2 6
ARMAGH.	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Charlemont Arms.	J. Hughes.	1 0	1 6	1 0	1 6 to 2 6	1 0	1 to 1 0	1 0	2 6
ATHLONE.	Lydia Gray.	1 0	1 6	1 0	1 6 to 2 6	1 0	1 to 1 0	1 0	2 6
Gray's Hotel.	P. Bourke.	1 0	1 6	1 0	2 0	1 0	1 3	1 3	No charge.
Bourke's.	W. Hare.	1 0	1 6	1 0	2 0	1 0	1 3	1 3	No charge.
Royal.	—	—	—	—	—	—	—	—	—
BALLYMENA.	J. Greer.	1 0	1 6	1 0	2 0	1 0	1 3	1 3	2 6
Adair Arms.	J. Jellott.	1 0	1 6	1 0	2 0	1 0	1 3	1 3	2 6
Jellott's Hotel.	—	—	—	—	—	—	—	—	—
BALINASLOE.	Craig.	1 0	1 6	1 0	2 0	1 0	1 3	1 3	2 6
Gill's.	J. Gill.	1 0	1 6	1 0	2 0	1 0	1 3	1 3	2 6
BALLYCASTLE.	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Royal.	W. Nelson.	1 0	1 6	1 0	1 6 to 2 6	1 0	1 0	1 0	No charge.
Navan Arms.	A. Lonne.	1 0	1 6	1 0	From 1 8	1 0	1 0	Optional.	—
BANDON.	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Donagel Arms.	J. Moore.	2 0	2 0	2 0	2 6	1 0	1 3	1 3	3 6
Imperial.	Charles Hurst.	2 0	2 0	2 0	3 0	1 0	1 6	1 6	3 to 8
BRAY.	J. Quin.	2 6	1 8	1 0	3 0	1 0	1 0	1 0	2 6 to 3 6
Quin's.	G. Read.	1 0	1 8	1 0	2 0	1 3	1 3	—	1 6
BRYANSFORD.	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Eden Arms.	S. Reid.	1 0	1 0	0 8	1 8	0 8	0 8	1 0	2 6
BUSHMILLS.	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Reid's.	Mary Carr.	1 0	1 6	1 0	2 0	1 0	1 0	1 0	5 0
CLIFDEN.	H. Hart.	1 0	1 6 to 1 8	1 0	2 0 to 2 6	1 0	1 0	—	—
Carr's.	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Hart's.	D. Hearn.	1 0	1 6 to 1 8	1 0 to 1 6	2 to 2 6	1 4	1 to 1 6	1 0	—
CLONMEL.	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Hearn's.	—	—	—	—	—	—	—	—	—

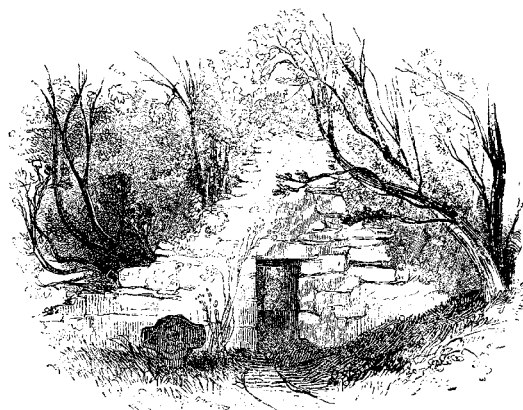
HOTELS.

KILLARNEY AND THE SOUTH OF IRELAND BY GREAT SOUTHERN & WESTERN RAILWAY.

Via Mallow Junction by railway direct.
Via Cork, thence to Bantry, and on by car *via* Glengarriffe and Kenmare.
Prince of Wales Route, p. 160.
Via Cork, thence to Macroom and on by car *via* Glengarriffe, p. 167.

L.—FROM DUBLIN TO CORK.

ON RIGHT FROM DUBLIN.	From Cork.	STATIONS, ETC.	From Dublin.	ON LEFT FROM DUBLIN.
	164½	Dublin. Kingsbridge Terminus.	0	Royal Hospital of KILMARNHAM, on the site of Priory of the Knights Hospitallers.
INCHICORE HOUSE	163½		1½	LOCOMOTIVE DEPOT at INCHICORE. Coke ovens and workshops attached.
CHAPELIZOD 1 m. A village on the river Liffey, of great antiquity. Here William III. encamped in 1690, after his victory on the Boyne.	162½		2	JAMESTOWN HOUSE.
BALLYFERMOT, castle and church. The latter dedicated to St. Lawrence.	161½		3½	
	160½	Clondalkin. The name of the village is supposed to be derived from a church founded by St. Mochna, called <i>Chlain Dalcain</i> . See p. 117.	4½	Round tower seen from the line. One hundred feet in height. One of the most perfect in Ireland. CLONBURREN. The plantations of CASTLEBAGGOT.
LUCAN CHURCH.	158½	Lucan.	6½	
LEIXLIP village is 8 miles distant. The castle dates from the 12th century.	157½	1½ m. distant, a fashionable spa prettily situated on the Liffey near the waterfall called the Salmon	7	



復刻版 オシアン協会会報 1853-1858

全6巻＋別冊解説

Transactions of Ossianic Society, 1853-1858

既刊・在庫

監修・解説■佐野哲郎（京都大学名誉教授）

2008年3月刊行 A5判・約1,775頁 本体セット価¥98,000-（＋税） ISBN 978-4-902454-42-0



- 1853年にダブリンで設立された、オシアン協会の会報全号を完全復刻。
- 18世紀にスコットランドのジェームズ・マクファーソンにより収集され、スコットランドで書かれたものと誤って伝えられた、ケルトの一連の叙事詩「オシアン」の源は、アイルランドにあると主張した、ジョン・ドノヴァン、ユーージン・オカーリなどアイルランドの研究者達が設立した協会で、アイルランド研究に大きな足跡を残した。
- 後のアイルランド文芸復興運動の糸口ともなった本協会の発表の場となったこの雑誌は、アイルランド文学・歴史、そしてケルト文化全般の様々な研究に利用できる貴重な文献。

監修者の言葉

京都大学名誉教授 佐野 哲郎

1853年3月17日、セント・パトリックス・デーを期して、ダブリンのトリニティ・カレッジに近いある書店に、数人の人物が集まった。彼らがオシアン協会を設立したのは、その2か月後の5月9日だった。この協会の目的は、フェニアン伝説、すなわちフィン・マク・クールを頭領に戴くフェニアン（戦士）たちを主人公とした詩や物語を、古文書や民間伝承のなかから掘り起こして、アイルランドの言語と文字で印刷し、忠実な翻訳とともに、世に問おうというものだった。

協会の活動は短かった。1854年に会報の第1号を刊行してから、あしかけ9年で、活動は終わった。その間に刊行された会報は、全6巻だった。しかし、第1巻の『ガウラの戦い』は、フェニアンの最後の戦いとして、また彼らの最大の勇者であったオスカルの死を語る物語として、今ではよく知られている。また、第3巻の『ディアミッドとグラニーアの追跡』は、『トリスタンとイゾルデ』の物語の原型とも言われる、有名な物語である。いずれも、完全な形で翻訳されたのは、初めてだった。

さらに見逃せないのが、第4巻の『常若の国のオシーンの歌』である。これは18世紀の詩人ミホール・コミンの作品である。フェニアンたちを主人公とした詩や物語は、アイルランドでは最も人気があり、18世紀に至るまで、次々と新しい作品が生まれ続けたが、これは、その最後を飾るものと言えよう。これが現代において注目されるのは、それまでオシーン（スコットランドではオシアン）を主人公として断片的に語り伝えられてきた「浦島伝説」の集大成が、この詩であったということのほか、W・B・イェイツが1889年に発表して、いわゆるアイルランド文芸復興の発端となった『オシーンの放浪』が、この詩に想を得たからでもあった。さらに、イェイツは、第1巻、第3巻、および第4巻に収められた小品からも示唆を得ている。新しい文学運動のきっかけとなったのは、最後のフェニアン詩であった。

多くの作品には、詳しい注が付けてある。ときには、膨大な量に及んでいるものもあって、編者たちの意気込みをうかがわせる。彼らの脳裏には、18世紀に「オシアン詩」を世に出して、大評判となったスコットランドのジェームズ・マクファーソンがあったに違いない。つまり、フェニアン伝説は、本来アイルランドに起こり、それがスコットランドにも伝わったものであって、本家はこちらなのだ、という意識が、膨大な注釈となって現れたのだろう。アイルランド神話・伝説の研究は、20世紀に長足の進展を遂げたが、その重要な土台となった本協会の活動は、今も独自の光彩を放っている。



発行元：Eureka Press（ユーリカ・プレス）

c/o Edition Synapse（エディション・シナプス）

〒101-0047 東京都千代田区神田 2-8-5 山口ビル 3F

Tel: 03(5296)9186 Fax: 03(3252)1822

取り扱い書店：